

授業科目名	公益事業論 II		
科目区分		開講時期	前期（4月11日～8月5日）
学部・学科等	経営学部経営学科	曜日	月曜日
必修・選択区分		時限（時間）	2時限(10時40分～12時10分)
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	本校舎
担当教員名	蟻生 俊夫		
電話番号（代表者名）	0285-22-1111	e-mail アドレス	gakumu@ad.hakuoh.ac.jp
オフィスアワー	特に設けず、e-mail や電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい></p> <p>現在、電力・ガス、通信、鉄道・航空など公益事業の分野では、規制緩和や民営化の動きが急速に進展し、経営上、さまざまな変化が起こっている。本講では、こうした動きをグローバルな視点から概観する。そして、それぞれの業界において、その歴史や特徴、理論等を踏まえ、新規参入と料金設定に対する規制が実際にどのように適用されているか、具体的な事例にもとづき紹介していく。さらに、規制緩和および民営化の及ぼす影響について、価格変化のみならず、サービス多様化や組織改革などの幅広い側面から評価、確認する。</p> <p>欧米、日本の規制緩和や民営化の経緯、現状を把握する。また、公企業・公益事業経営の具体例として、郵便、航空、電気通信、水道、バス、鉄道、電気などの事業の歴史、会社形態の変遷、料金規制、特徴などを理解する。さらに、電気事業については、停電や地球温暖化などの幅広い影響まで解釈できるようにする。</p> <p><前提とする知識・経験></p> <p>前提科目：企業論、公益事業論 I、経済原論</p> <p>関連科目：経営戦略論、経営分析論、交通論、経営組織論、企業関係法</p> <p>公益事業は、我々にとって大変身近な存在である。そこで、海外も含め、さまざまな公益事業に属する産業の事例を通して、公益事業の理論の理論と実際の結びつきを理解とともに、自らの問題意識の中で公益事業の理論を考えていくようとする。</p> <p><授業内容と具体的な進め方></p> <p>講義では、具体的な事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し隨時説明を加えていく。パワーポイント（パソコン）やDVDビデオを用いた講義も予定している。</p> <p><授業計画></p> <p>詳細はWebシラバスを確認してください。</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法></p> <p>特定の教材は用いない。</p> <p><成績評価法></p> <p>①具体的な評価方法 中間試験、期末レポート、豆テスト、ノートチェックにもとづき評価する。</p> <p>②評価方法の比率 原則として中間試験 40%、期末レポート 30%、豆テスト 20%、ノートチェック 10%の比率で判定する。</p> <p><教員からのメッセージ></p>		